



『いのちのために まじめに未来を考える。』

特定営利活動法人 生きものと食べものの未来

暑い日が続いております。いかがお過ごしですか？

生き食べ未来 通信は、「特定営利活動法人 生きものと食べものの未来」の会員様にお送りしています。皆様との情報提供・交換の場となればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

暑さに負けず！「生き食べ未来 通信」2号をお届けいたします。

/// I N D E X ///

- ・巻頭言.....
- ・活動紹介..... 7月の活動紹介/活動実績/今後の予定
- ・会員企業様ご紹介..... 株式会社森光商店
- ・コラム：私の提言..... PFASとこれからの向かい方
- ・食べもの紀行..... 荒尾のまじやくのてんぷら
- ・7月にご入会いただいた方
- ・コーヒーブレイク..... 図書紹介
- ・編集後記.....



巻頭言



『生き食べ未来通信』8月号をお届けします。

創刊7月号は、何を会員に伝えていくのかわからないまま、また、理事・監事全員が情報誌を発行することが、初めての経験であり、また、文章を書くのも素人、手さぐりの中で編集しました。

しばらくは、一貫性が無く、内容が不適切なものになるかもしれませんがご容赦をお願い申し上げます。

過日、水俣病被害者との懇談会で環境省職員が制限時間3分を超えたということでマイク音を切った事件がありました。その後も伊藤環境大臣が水俣を訪問し謝罪するなど、八代生まれの私は、今でも水俣病は終わっていないと強く感じています。TSMCは、台湾で排水などによる環境汚染を引き越しています。そのTSMCの子会社で熊本に進出するJASMは、半導体製造工程の中でPFAS（有機フッ素化合物）を大量に使用します。そのため、熊本でも新たな環境汚染源となる可能性があります。

8月号《私の提言》では、PFAS（有機フッ素化合物）が、新たな環境汚染を発生させるとして世界中で注目され始めているPFASをとりあげ、環境汚染をどのように防ぎ、立ち向かうのか考えることにします。



活動紹介

7月の活動紹介

★第1回 生き食べ未来の集い

日時：令和6年7月13日（土）14時30分～16時

場所：[福岡市中央区今泉1-19-22 西鉄天神クラス4階 あすみん](#)

内容：テーマを「《特定非営利活動法人 生きものと食べものの未来》が目指すもの」として予定していましたが、会員や一般の方々の参加が無かったため閉会しました。テーマ設定、広報、今後の運営など課題を残す結果となりました。

★光と色のふしぎ実験：世代間の交流活動《理科好きなこども育成》

日時：令和6年7月14日（日）14時30分～16時

場所：[福岡市中央区今泉1-19-22 西鉄天神クラス4階 あすみん](#)

内容：LEDを使った光と色の学びやイルミネーション工作の実験教室を行いました。

満席になり、無事終了いたしました。活動場所の「あすみん」さんのご厚意や福岡市立中央児童会館あいくるさんの飛び入りのお手伝いもあり、有意義な活動となりました。参加者の方々のアンケートでは、保護者の方から『光の三原色に負けない位、目をキラキラさせていました！』との感想も！

活動の様子や、いただいたアンケートは、[こちらからどうぞ！](#)



7月の活動実績

【7月の活動実績】

- ・4日佐賀県武雄市で開催された佐大1号（高オレイン酸大豆登録名称）活用プロジェクトに理事長、副理事長が参加した。今後、熊本県、大分県など栽培地が拡大する中、武雄市、佐賀県内を中心とした広告宣伝を行うのではなく、福岡市、首都圏など規模の大きい消費地での販売促進にも力を入れることを提案した。
- ・18日竹田津副理事長が関わっているママミール社を理事長、副理事長が訪問した。依頼あった冷凍食品の開発に関して、商品企画書の作成、成分表示、包装資材、保管・輸送手段など多岐に亘ったコンサルティングを行った。これを契機にママミール社が法人として会員登録を行った。
- ・23日やまやコミュニケーションズからEC向け商品輸出のためのEUHACCP取得のための指導・助言を竹田津副理事長がやまや本社にて行った。竹田津副理事長はHACCP指導員の資格を所有、また、数少ないEUHACCP登録施設の責任者をしている。やまやコミュニケーションズは、農水省のホームページから竹田津副理事長を探し、依頼してきたものである。

今後の予定

★光と色のふしぎ実験

日時：令和6年8月3日（日） ①10：30～②13：30～（各90分）

場所：福岡市中央区今泉1-19-22 西鉄天神クラス6階 あいくる

科学あそび～光と色の不思議探検～

おかげさまで
すでに満席です

★第2回生き食べ未来の集い

日時：令和6年9月23日（振替休日） 14時30分～

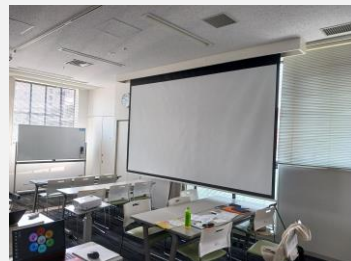
場所：[福岡市中央区今泉1-19-22 西鉄天神クラス4階 あすみん](#)

テーマ：食料問題にどのように立ち向かうのか。（仮称）

対象者：会員及び当法人に興味がある方々（入会を検討中の方含む）

お申し込みはいりませんが、下記からお申込みいただけましたら幸いです。

お申込み：<https://forms.gle/fDl7tnbiDh3KPbpb9>



会員企業様ご紹介

株式会社森光商店（代表取締役 森光栄一氏）



当社は、明治10年7月20日に創業した売上高265億円、従業員345名、九州では最大規模の老舗穀物卸商社です。事業は、穀物問屋としての米・麦・大豆・雑穀類の集荷、加工、販売だけでなく、それらを原料とする加工食品、ペットフードの製造・販売を行っています。

最近、佐賀大学が開発した高オレイン酸大豆を独占的に扱い、その大豆が健康に良い、大豆臭がしないなど、良質な特性を伝え、普及させるべく、周知と拡販に努めています。

《NPO法人 生きものと食べものの未来》は、高オレイン酸大豆の特性に注目した機能性表示食品の開発やあらたな商品づくり、販路の拡大などで関わっています。日本食の世界的評価の高まりやインバウンド需要の急激な拡大で米穀類の消費が伸びています。また、ひっ迫する蛋白需要に安定供給できる蛋白源としての大豆に世界が注目しています。

当社は、古くて新しいが、これからの食の最先端の原料を扱っていると自負しています。これらを原料や商品開発を検討している方の連絡をお待ちしております。

連絡先：0942-85-1125（代） 窓口橋爪秀敏常務取締役

佐賀県鳥栖市藤木町字若桜9-7（商工団地内）

E-mail: harriy@morimitsu.co.jp Web: <https://www.morimitsu.co.jp/>



会員の方の投稿、おまちしております！
こちらまで、メールでどうぞ！

info@npo-ikitabemirai.org



コラム：私の提言

PFASとこれからの向かい方

PFAS（ピーファス：有機フッ素化合物の総称）は、最近、健康に害を与えるということで注目されている化学物質である。PFASは、水や油をはじき熱に強いという特性があり、1940年代より、焦げつきにくいテフロン加工のフライパンや防水服、食品の包み紙などの身近な日用品から、航空機の火災などで使われる泡消火剤や半導体製造過程での洗浄、自動車の部品にまで幅広く利用されている。

既にPFASはそれを含んだ井戸水や川から取水した水道水を通じて、体の中に取り込まれている可能性が大きいと言われている。神戸市役所は、ミネラルウォーターから暫定の目標値の2倍を超える高濃度のPFASが検出したと報告している。また、沖縄嘉手納基地、横田基地など米軍基地周辺で高濃度のPFAS汚染が顕在化し、住民運動まで引き起こしている。

PFASは、人体の中に取り込まれ、健康被害をもたらしているという研究発表がされ始めた。アメリカではテフロン（PFASの商標）の開発者であるデュポン社に対して健康被害で3,500件以上の損害賠償請求裁判が起こされているという。

健康被害は顕在化してからでは遅すぎる。国際機関やアメリカなど各国はPFASに対し、水質の目標値などを設定して監視を強めている。前述したように、PFASをゼロにすることはできないまでに社会に浸透してしまった。

神戸市内で製造されたミネラルウォーターのペットボトルでは、最高で水道水に対する国の暫定目標値（1リットルあたり50ナノ・グラム）の2倍にあたる濃度を検出しました。現状では、ミネラルウォーターは食品衛生法上、清涼飲料水に規定され、同法に基づくPFASの規制などがないのである。

以下、参考にNHKクロズアップ現代 PFAS取材班の記事の要約

PFASによる健康リスクを私たちはどのように考え、どう対処していくべきか。

- ① 汚染地域を特定する
- ② 数値が高い地域では血液検査を実施する
- ③ 住民の血中濃度が高い場合はPFASの新たな摂取を抑え定期的なスクリーニング検査を行う

PFASはどのようなメカニズムで病気を引き起こしているのか証明されていない中で、重大な疾患と高い関連性が一貫して見つかっている。エビデンスに基づけばPFASにより病気を発症した人たちはいると言える。

WHO（世界保健機関）は水道水のPFASの濃度の指針値として、日本は、地下水や川など環境中の水と水道水は、PFOSとPFOAの合計で1リットルあたり50ナノグラムを法的な拘束力のない暫定的な目標とした。

アメリカは国として、長く暫定的な目標値としてPFOSとPFOAの合計で1リットルあたり70ナノグラムとしていたが、2023年3月、国として初めて規制値の案を公表。PFOSとPFOAはそれぞれ1リットルあたり4ナノグラムとした。

正式に決定されれば水道事業者は規制値を守ることが義務付けられる。

健康への影響は？

PFASは病気との関連が指摘されているが、科学的な根拠（エビデンス）はまだ十分ではない。そうしたなかで2022年、アメリカの学術機関・全米アカデミーズの委員会は連邦政府からの要請を受けて、5000本以上の論文を分析し現在わかっていることをガイダンスにまとめた。

「関連性を示す十分なエビデンスがある」としたのは以下の通り。

▼動脈硬化などの原因となる脂質異常症 ▼腎臓がん ▼抗体反応の低下（ワクチン接種による抗体がでにくい） ▼乳児・胎児 の成長・発達への影響

「限定的または示唆的なエビデンスがある」としたのは以下の通り。

▼乳がん ▼肝機能障害 ▼妊娠高血圧症 ▼精巣がん ▼甲状腺疾患または機能障害
▼潰瘍性大腸炎

血液中のPFASの濃度と健康リスクとの関連について

1ミリリットルあたり20ナノグラムを超える状態が続くと健康へのリスクが高く、2ナノグラム未満だとリスクは低い。（PFOSとPFOAを含む7種類のPFASの合計） 以上要約

PFASが健康被害を与えることは事実のようであるが、代替品が無く、急には使用禁止できないこと。微量の摂取では健康への影響が少ないと考えられること、また、活性炭フィルターなどである程度除去できる可能性があることなどから、過度に恐れることはせず、発生源を特定し、発生状況を監視・規制していくこと。そして、より安全な代替物を開発し、徐々に減らしていくこれが現在の最適解と考えます。

熊本は、公害の原点「水俣病」発祥の地です。JSMCのPFASなど有害物質を含んだ排水は現状の水質汚濁防止法、下水道処理法が対応できない可能性がある。有害物質が現在の排水処理施設では回収できず、河川に放出される可能性もある。放出に関して、世界基準で福島処理水のように公正な国際機関に依頼して安全を担保したうえで放出するべきと考えます。熊本ではJSMC特需で景気の良い話を聞くことが多く、批判的な声をあまり聞きません。それでも環境汚染に関しては、熊本県民が声をあげ、厳しい目をもって廃棄物処理の監視と環境対策の実行をさせるべきです。

環境汚染と健康被害は、未知であること、無知であること、関知せず知らないふりをすることが、時に大きな禍（わざわい）をもたらします。

環境汚染と健康被害は、多額の国家の賠償責任が生じ、賠償金は、借金や税金として徴収された中から支払われ、現役世代と未来世代が負うことになる。私は、未来に対して負の遺産を遺さないためにも監視活動・対策の強化を促す行動を起こしていきたい。

川上龍太郎



食べもの 紀行

荒尾のまじゃくのてんぷら



有明海と八代海の一部の干潟のみに生息するまじゃくを食べに行きました。

今では荒尾市が地域おこしで紹介に力を入れています。

荒尾市発行「グルメマップ あらお マジャク編」で探した寿司・お食事処「大関」に予約したのが大正解。

今年のまじゃくは、抱卵し、大きいのが多く久しぶりに自信をもって出せるとのこと。去年は全くだめだったとか。

8月末までがシーズンですが、お店に確認してから行くことをお勧めします。

海水温上昇、干潟の生態系の変化や環境汚染でいつまで食べられるかわからないようです。

まじゃくは、寿司ネタのシャコの親類ですが、殻が柔らかくまるごと食べられます。干潟の香り？と何とも言えない味、ぜひ皆さんにお勧めしたい逸品です。



7月にご加入いただいた方

Y.Kさん（福津市）

M.Hさん（愛知県）

株式会社ママミール様（福岡市）

西邦化学産業株式会社様（久留米市）





◆図書紹介

「光と影のTSMC誘致」

深田萌絵 著・編集



日経新聞で紹介された『光と影のTSMC誘致』深田萌絵著を読んだ。TSMCは台湾で水不足、電力不足、近隣住民の健康被害、そして環境汚染の顕在化により工場拡張ができない状況になっているという。熊本は、豊富な地下水、太陽光発電と原子力発電による電力の安定供給、低賃金で優秀な人材の確保、日本で最適な立地である。それに加え、日本政府や熊本県が1兆円を超える巨額の支出と誘致や環境保全に関する規制緩和の特例措置を行う。熊本は台湾に近く、直行便もある。TSMCにとって、熊本は至れり尽くせり、世界中で最も都合が良い場所だったのがある。本文の中にPFASを含めた未知の有害物質による環境汚染について詳しく述べられている。熊本県に関係がある方に特に一読を薦める書籍である。

深田萌絵さんの冊子「水俣病の悲劇を繰り返すのか」が100部手元にあります。希望者に進呈します。

お申込み：<https://forms.gle/qgBUnWmQrTAxnyRy6>



「土が変わるとお腹も変わる」 吉田太郎 著



著者土壌微生物と有機農業について、カーボンを切り口に、食べもの、健康、気候変動、菌根菌の深い結びつきをわかり易く解説したものである。オーガニック給食、有機農業、牛との共生、緑・土壌・微生物の夜水循環の再生による地球の蘇生、現代人の食の在り方など、多岐に渡った解説は、私たちが、環境・農・食を考え、行動するための基礎知識として役立つものであり、皆さんにぜひ読んでいただきたい書籍である。

◆近況報告

・7/13-15で松本市へ：竹田津 副理事



もちろんプライベートで〈全日本合唱連盟男声合唱フェスティバルin松本〉に参加する為に。

7/15に松本観光で、

松本城→浅間温泉→信州そば→松本市美術館を。



信州そばは、二八そば、十割そば、品種違いの3点を出して頂いたが、味の違いが判らなかった。十割でもボロボロではなくしっかりしていた。



7月のメインは、南区のお弁当屋さんとの冷凍ハンバーグ等の製造・物流に関するコンサル契約が結べたこと。通販のモグモ（幼児期向けの調理済み冷凍宅配幼児食）社からのラインナップ拡充のための対応。

これまでお弁当（一般、企業、保育園等）中心であった為、一括表示やセンターへの納品形態（包装・段ボール）などに対するアドバイスを展開していくこととなった。



編集後記

最後までお読みいただき、ありがとうございました。生き食べ未来通信は、今後、毎月お届けさせていただく予定で現在試行錯誤中です。

これからも、「特定営利活動法人 生きものと食べものの未来」と生き食べ未来通信を、よろしくお願いいたします。

会員の方々からの、投稿をお待ちしております。

テーマは、環境・農・食、教育、福祉など何でも構いません。

企業のご紹介やイベントのおしらせ・よろずご相談などなど、どうぞお気軽に下記メールまでお知らせください。



info@npo-ikitabemirai.org

WEBサイト・FBページ・インスタ もあります。 マークをクリックして、覗いて見てくださいね！



(く)